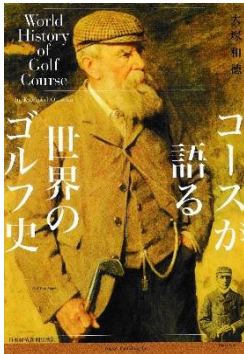


コースが語る世界のゴルフ史

大塚 和徳 著

★ 出版記録



- ・著 者：大塚 和徳
- ・発 行 者：斎藤 修一
- ・発 行 所：日本経済新聞出版社
〒100-8066 東京都千代田区大手町 1-3-7
- ・連 絡 先：TEL 03-3270-0251
- ・初版発行：2015年6月17日 1版1刷
- ・定 価：定価（本体3,200円+税）

★ 著者略歴

1934年大分県生まれ、戦前満州（現・中国東北部）公主嶺で育つ。

東京大学経済学部卒業後、第一銀行を経て帝人に入社。

フルブライト留学生としてペンシルバニア大学ウォートン・スクールで学びMBA取得。

英国ターンベリー・ホテルの経営、ジ・オックスフォードシャーGC建設に携わる。

海外でプレーした有名コースは450を超え、現在は米ゴルフマガジン誌「世界ベスト100コース」の選定パネリスト。

英国ロイヤル・ノースデボンGC（イングランド最古のリンクス、ウェストウォード・ホー！がホームコース）及びロイヤル・セント・デイビッツGC（ウェールズ随一の名門）会員。

日本ゴルフコース設計者協会名誉協力会員。

著書に

『世界ゴルフ見聞録』、

『ゴルフ 五番目の愉しみ』、

『「ゴルフ千年」タイガー・ウッズまで』等がある。

★ はじめに

Chapter1

第一編／偉大なコースを築いたコース設計の名匠たち

オールド・トム・モリス [1] 名リンクスの数々

オールド・トム・モリス [2] リンクス設計にも新機軸

ハリー・コルトと周辺人物 [1] マッケンジーとアリソンと

ハリー・コルトと周辺人物 [2] 知性派の七人
ハリー・コルトと周辺人物 [3] ハリー・コルトらしさ
近代ゴルフコース設計への橋渡し、ウィリー・パーク・ジュニア
名リンクス [ブローラ] を遺したジェームス・ブレイド
新設・改造にも尽力した三巨頭の一人、J・H・テイラー
希少なコースから窺えるハリー・バードンの設計思想
フィラデルフィアの四人 [1] ジョージ・クランプとゴルフ仲間
フィラデルフィアの四人 [2] ヒュー・ウィルソンとメリオン GC
フィラデルフィアの四人 [3] 趣味を生かした A・W・ティリングハスト
フィラデルフィアの四人 [4] 設計料ゼロだったジョージ・トーマス・ジュニア
メリオン GC の建設が生んだ新鋭ウィリアム・フリン
ショートブレイク (1) 高麗芝、ベン・ホーガンの執念、パンミュア GC

Chapter2

第二編／時代ごとに進化を遂げてきたコース設計理論

課罰型から戦略型へ [1] ジョン・ローによる戦略型の理論化
課罰型から戦略型へ [2] 「近代設計の父」ハリー・コルトの設計論
ロン・ウィッテンが纏めたジョン・ローの設計思想
コルトのライバル、ハーバート・ファウラーの設計理念
アリスター・マッケンジーの独自の戦略型理論
ジェームズ・ブレイドの設計思想 [1] 理想の 18 ホール
ジェームズ・ブレイドの設計思想 [2] 設計概念の総括
チャールズ・マクドナルド [1] コース設計・建設の要点
チャールズ・マクドナルド [2] 理想のコースへの方法論
ロバート・ハンター [1] コース設計・建設への準備
ロバート・ハンター [2] ルート・プラン
ロバート・ハンター [3] グリーン
ロバート・ハンター [4] ハザード
ロバート・ハンター [5] その他の重要項目
フェアウェイ・バンカーが備える役割と醍醐味
メジャー・トーナメントのナザードに見える“フェア理論”
良いコースト断言できる 3 つの大きな観点
ジャック・ニクラス [1] バンカーの 4 つの役目
ジャック・ニクラス [2] コースの構成要素
ジャック・ニクラス [3] コースの可視性、ボールの保留性
バンカーの変遷は、頽廃か進化か？
“アンフェアなバンカーはない”というジョン・ローの見解
ショートブレイク (2) とっておきのゴルフ情報を得るなら B&B で

Chapter3

第三編／世界のゴルフ史に遺る記念碑的名コース

セント・アンドリュース、オールドコースの特異な歴史

名物リンクス、コースも千差万別 [1] スコットランドの名物リンクス
名物リンクス、コースも千差万別 [2] イングランドの名物リンクス
名物オナラブル・カンパニーのホームコース、ミュアフィールド
内陸コースから独立・派生した名リンクス、サンドイッチ
“米国ゴルフの父”チャールズ・マクドナルドの傑作、ナショナル GL
世界ゴルフコース・ランキング 1 位、パインバレーをめぐる逸話
米国西海外の名コース、ペブルビーチ GL はこう造られた
スコットランドにハリー・コルト設計コースを訪ねる
米国に造られたハリー・コルト設計のコース
昨今の全米オープン・コース [1] パブリックか名門か
昨今の全米オープン・コース [2] ジョーンズ一家三人目の挑戦
ターンベリー・ホテル、エイルサ・コース 13 番パー4 の芸術性
3 つに大別される、ゴルフコースの改造目的
ショートブレイク (3) スコットランドの 3 大傑作ホール

Chapter4

第四編／コース論から離れて

ゴルフを変質させたガタ・パーチャ・ボールの出現
イングランドのゴルフの父、ホーレス・ハッチンソン
バーナード・ダーウィン [1] 『種の起源』チャールズの孫
バーナード・ダーウィン [2] 文筆活動を越えて
もう一人の米国ゴルフの父、アレックス・フィンドレイ
米国生まれの悲劇の名ゴルファー、ジョン・マクダーモット
全米オープン&アマを初めて同年制覇したチック・エバンスの偉業
ツアー・プロの魁、ウォルター・ヘーゲンとジーン・サラゼン
パーマーとマコーマック、ゴルフをビジネスへ変えた名コンビ
複雑で難しい関係が続いてきたオリンピックとゴルフ
ゴルフコースとは別物である“ゴルフ倶楽部”のしきたり
タイガー・ウッズに陰りが見えた 2010 年の全英オープン
“ペイ&プレー”、若者がメンバーになりたがらない英国ゴルフ事情

結び マスターズに改造を強られるオーガスタ・ナショナル GC の宿命
あとがき

★ 本文引用



「日本のゴルフ関連の書物に目を転ずると、数は多いが、このゴルフをユニークなスポーツ、ゲームにしている、コースそのもの、設計概念、実績を残した名設計家、この辺りにスポットを当てた一般ゴルファー向けの著書はなかなか見当たらない。

本書は、この空洞となっている分野を埋めるものと考え、過去約 5 年間、

一季出版が発行するゴルフ場経営の専門月刊誌『ゴルフマネジメント』に
筆者が連載した記事を、4つの遍に纏め、これに手を加えたものを基本とし
ている。 」

— (はじめに) より抜粋 —

★ 本書に関して



本書が出版されたと言うニュースに接して以来、入手したいと考
えていた矢先に、某大学教授との会話の中で本書が話題に成った。
購入しようと考えていた旨を伝えたところ、まとめて購入したので
一冊わけてあげる、と言われ入手した次第。

著者は海外のゴルフクラブを訪れた際に、そのコースの歴史等が解
かる書物を入手する、或いは頂いたりし、多くの資料に接している。そして何よりも強みは、
その原書をまるで絵本でも読んでいるかの如く、速読してしまう点では無いだろうか。

これから述べるエピソードは、著者と交流の有る先程の、某大学教授から伺った話である。
教授曰く、ある英文のゴルフに関する膨大な資料を、著者へ送った翌日お昼近くに、届いた
か否かの確認の為に電話連絡したところ、(既に半分読み終えたところですよ) との答えがか
えてきたと言う。

その能力たるや、恐ろしい、と教授は話されていて、電話での私に対する説明時間は約10
分にもおよび、興奮している様にお見受けした。

本書は著者のこのような能力と資料読み込みに裏打ちされて仕上げられており、史実に対する記
述は大変勉強になる。何度も何度もノートにメモを取りながら、前後関係が良く理解出来る様
に読み進んだ。ある意味、本書はゴルフ史辞典と言えなくもない。

ゴルフコースに対する設計者の理論或いは人物像などを著者は、世界ゴルフ史その黎明期よ
り紐解いて解説している。

約530ページも有る大作なので、本を手にとって見るとその威圧感から、しり込みしそうに
なるが、読み込んで行くと興味が先行し、どっぷりと読みふけてしまう。

ゴルフ関係者であれば、是非一読はして頂きたい一冊である。

2023年2月28日

文__大野良夫

◎ Yoshio Oono

日本ゴルフジャーナリスト協会 会員